



発行所：一般社団法人佐賀県臨床検査技師会  
〒840-8571 TEL:070-2392-1447  
事務局：佐賀県医療センター好生館 検査部内

発行人：平野 敬之 編集人：柴田 由美  
URL : <https://saringi.jp>  
Email : [saringi-jimu@saga.email.ne.jp](mailto:saringi-jimu@saga.email.ne.jp) (事務局)

佐臨技HPへ  
はこちらから

### 第3回タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会 開催案内

第3回となります標記講習会の日程が決定しました。  
日時：2025年2月9日(日)  
場所：佐賀県医療センター好生館看護学院  
(佐賀中部病院北側)  
事前参加登録開始日：12月9日(月)  
申し込み締め切り日：1月30日(木)(入金締切日となります)

受講には基礎講習の視聴(700分)が必須となります。定員は60名となっています。定員になり次第受付終了となりますので早めの申し込みをお願いします。詳しくは日臨技ホームページをご確認ください。

<https://www.jamt.or.jp/task-shifting/>

### 2024年度 第3回表彰(賞・罰)審査委員会報告

標記委員会を11月6日(水)Webによる形式で開催しました。

議題1. 日臨技各賞受賞候補者の推薦について  
議題2. 日臨技貢献賞(個人)の推薦について  
議題3. 結核研究奨励賞候補者の推薦について  
上記、3議題について審査の結果、今回は全て「該当者なし」となりました。

### 2024年度 第3回事業推進委員会報告

標記委員会を11月14日(木)Webによる形式で開催しました。

議題1. 2024年度全国「検査と健康展」について  
開催日時：12月1日(日)10:00~16:00  
11/12に杉野委員長、森田副委員長、石橋にてゆめタウン佐賀様との2回目の打ち合わせに行き、入店許可申請書・スタッフ及び利用者車ナンバー一覧・案内チラシを提出しました。  
併せて、ゆめタウン佐賀様HP・電子掲示板等への掲載依頼を行いました。

実務員配置(案)を提出し、実施項目毎に責任者を選定させていただきました。責任者を主体として説明・案内文の作成を依頼し、実施項目毎に詳細の確認を行いました。記念品はエコバックに決定しました。

会員の皆様には実務員募集にご協力いただきありがとうございました。

みなさま、ご家族、ご友人お誘いあわせの上ご参加お待ちしております。

### 第1回九州支部内連絡会議報告

11月8日(金)、鹿児島サンロイヤルホテルにて標記会議が開催されました。検討事項として、各県主催の勉強会への参加と周知方法について、災害対策に係る自治体等との提携進捗状況について、精度管理に関する試料作成や人材育成について、九州支部研修会や部門会議の在り方について、技師のクリニカルラダー制

度確立についてなど多くの事項について意見が交わされました。その他、支部学会・全国学会開催日程等について報告がありました。第59回九州支部医学検査学会は長崎県担当で、2025年10月18日(土)・19日(日)にシーハットおおむらで開催され、第60回は大分県担当で2026年11月7日(土)・8日(日)に別府ビーコンプラザで開催されます。また、第76回日本医学検査学会が長崎県担当で2027年5月22日(土)・23日(日)に出島メッセで開催されることとなっています。

最後に日臨技からの連絡事項があり、閉会となりました。

### 2024年度日臨技九州支部医学検査学会(第58回)報告

11月9日(金)~10日(日)、鹿児島サンロイヤルホテルで開催された標記学会に参加しました。2日間の参加者数は854名と九州各県から多くの会員が参集し、とても盛況な学会となりました。今年の4月、鹿児島県に臨床検査技師養成校が開校したこともあり、多くの学生が参加していました。会員も含め若人が活躍するとても活気ある学会でした。

企画も充実しており、一般演題の他に日臨技代表理事の横地会長による基調講演はじめ、各種講演があり、また日臨技企画、今回の担当県である鹿臨技企画、各部門におけるシンポジウムなど盛りだくさんな内容でした。鹿臨技企画1は臨床生理部門との合同企画で「タスク・シフト/シェアおよびその他の業務拡大関連について」をテーマに、当会からは済生会唐津病院の山口博男理事が佐賀県の現状について県内施設にご協力いただいたアンケート調査をもとに報告および所属施設の状況について紹介いただきました。その他、佐賀県からは佐賀県医療センター好生館の松隈有悟技師、国立病院機構佐賀病棟の田原彩華技師、井上衣都子技師が座長を務め、佐賀大学医学部附属病院の山田麻里江技師が輸血のシンポジストを務めました。一般演題には9名のエントリーがありました。

今回の企画で大変印象深かったのは、日臨技企画・学生フォーラムで、4校の養成校の学生が自身の将来像について、学びや考えをもとに堂々と報告している姿です。とても頼もしく感じるとともに現役技師として、初心を思い出し、身の引き締まる思いでした。

記念式典では3名の方が「日臨技支部学術奨励賞」を受賞されました。これは前年度の支部学会において特に優秀な一般演題発表者に送られるもので、受賞にむけ、今後の佐臨技会員皆様のご活躍を期待しております。

学会運用面で気になった取り組みとしてはPCセンターの運用がありました。通常は発表データのやりとりなどはコンベンションなどの委託会社のスタッフが行ないますが、今回は委託会社のスタッフ常駐は1名のみで、基本的な対応は鹿臨技スタッフが行なっていました。特に大きなトラブルもなく運用されていたと思いました。また、機器展示などをまわるスタンプラリーですが、次回開催案内ブース・技師連盟ブースに行かないと景品がもらえないような工夫がされていて両ブースともに多くの参加者が訪れていました。

裏面へ続く

来年度開催の第59回は、長崎県担当で2025年10月18日(土)・19日(日)にシーハットおおむらで開催されます。奮ってご参加ください。

### 第18回佐賀県糖尿病対策推進会議報告

10月31日(木)、標記会議がWebにて開催されました。本会議の会長である志田正典佐賀県医師会会長の挨拶の後、新任委員紹介、昨年度の活動報告と今年度の広報活動計画が審議され、すべての議題が承認されました。会議の中で、例年開催されている「世界糖尿病デー」の名称が今年度から「World Diabetes Day」へと変更になることの説明がありました。また、能登半島地震における災害糖尿病医療支援チーム(DiaMAT)の活動について、発災直後から佐賀大学をはじめとした施設から医師・看護師の派遣を行い、被災地における糖尿病患者支援のための活動に関する報告がありました。

今年度の啓発活動は、以下のとおり開催されました。

#### 「2024年 World Diabetes Day(世界糖尿病デー)in さが」

- ・建造物ブルーライトアップ  
唐津城、佐賀メディカルセンタービル  
11月11日(月)～17日(日)  
昇開橋 11月12日(火)～18日(月)  
SAGAアリーナ 11月13日(水)～17日(日)
- ・懸垂幕掲示 佐賀県庁
- ・県民などへの広報活動(STSスポット放送、記者発表・市町への広報)
- ・啓発イベント  
日時：11月10日(日)10:00～14:00  
場所：佐賀市 モラージュ佐賀 北館2階Sanki前フロア  
対象：一般県民  
内容：血糖測定、HbA1c測定、血圧測定、血管年齢測定、歯周病チェック、栄養相談、運動指導など

### 第2回佐賀県医師会臨床検査精度管理調査解析作業部会報告

11月13日(水)、佐賀メディカルセンターにて標記会議を開催しました。今年度の調査は10月9日(水)～19日(土)に実施されました。報告事項では、施設の参加状況やデータ収集状況、アンケート調査の結果、今年度の解析担当等について確認しました。その後、評価方法、報告書の作成、今後の解析スケジュールや来年2月15日(土)に開催予定の第37回(令和6年度)佐賀県医師会精度管理調査報告会のプログラム等について協議を行いました。

### 第18回JIMTEF災害医療研修アドバンスコース参加報告

2024年11月3日(日)・4日(月)に神戸市のJICA関西で開催された災害医療研修アドバンスコースに参加しました。この研修会は、ベーシックコース修了者を対象とした上級コースで、医師、理学療法士、作業療法士、栄養士、臨床心理士、臨床工学技士など、多職種から約100名が集まりました。

研修では8人1組のチームに分かれ、災害発生時の対応をシミュレーション形式で学びました。演習内容は、災害発生直後の急

性期対応、避難所の運営・評価、本部運営のほか、災害食の調理・試食体験も含まれており、多岐にわたるものでした。また、一部の演習では設問が設けられ、役割分担のもとチーム内で討論を行い、その成果を発表しました。多職種ならではの異なる視点からの意見交換は非常に有意義でした。

避難所運営の演習では、次々と訪れる被災者への対応や、被災者のプライバシーやニーズを考慮した部屋割りの難しさを実感し、避難所マネジメントの課題を痛感しました。一方、本部運営では、絶えず入る情報に迅速かつ的確に対応する必要性を強く感じました。特に、チーム内での情報共有や進捗管理が重要であり、記録を適切に残すことの重要性も再認識しました。

災害対応においては、「不要な情報」は存在せず、すべての情報を整理し記録することが大切です。その中で、需要と供給(資源)のバランスを調整する役割を担う災害医療コーディネーターの重要性を改めて実感しました。また、災害時の本部運営では以下の3つの視点が求められることを学びました。

- ・「虫の目」：必要な専門職や資源を見極める細やかな視点
- ・「鳥の目」：被災地全体を俯瞰し、外部支援の必要性を判断する視点
- ・「魚の目」：時間の経過による変化を把握して対応する視点

今回の研修を通じて、いつ起こるかわからない災害に備え、技師会として予測、予防、対応の強化が求められることを再認識しました。現在作成中のマニュアルの早期完成、医療資機材の準備、そして災害医療研修の受講推進をさらに進めていきたいと思えます。

(佐賀大学医学部附属病院 梅木俊晴)



研修会風景

### 10月活動報告

31日(木) 佐賀県糖尿病対策推進会議(web)・・・平野

### 11月活動報告

6日(水) 表彰(賞・罰)審査委員会(WEB)・・・平野・石橋  
8日(金) 九州支部役員連絡会(鹿児島県)・平野・石隈・牛島  
9～10日 九州支部医学検査学会(鹿児島県)・・・三役  
13日(水) 医師会精度管理調査解析作業部会(佐賀市)・・・平野  
14日(木) 事業推進委員会(WEB)・・・三役  
21日(木) 三役会(WEB)・・・三役